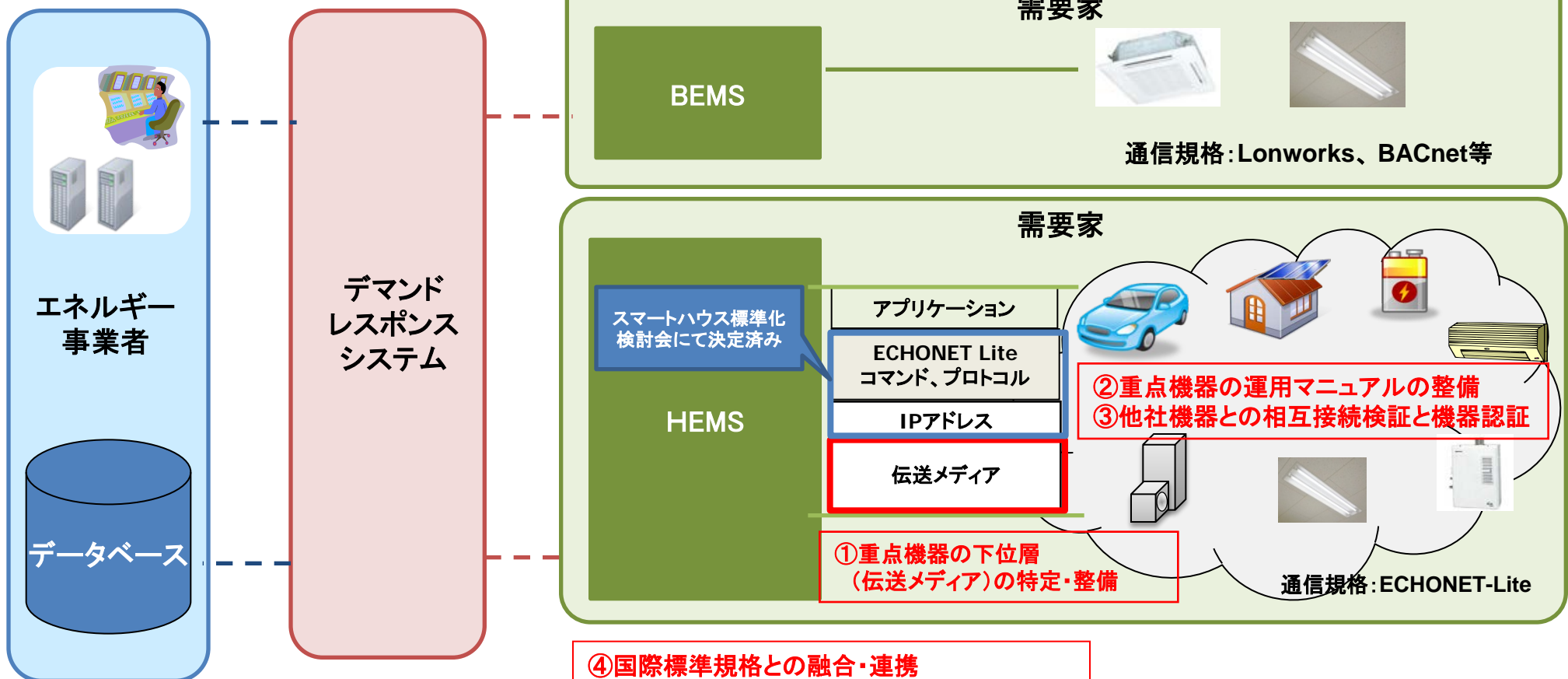


第3回スマートハウス・ビル標準・ 事業促進検討会の概要

平成25年
商務情報政策局

スマートハウス・ビル市場普及拡大に向けた5つの課題

⑤DR技術・標準の調査・研究



④国際標準規格との融合・連携

日本	米国
ECHONET Lite (策定済)	SEP 2.0 (策定中)
<ul style="list-style-type: none"> ・スマートメーターやPV、蓄電池を含んだ約80種類の宅内外機器の細かな制御が可能 ・需要家主導の制御 	<ul style="list-style-type: none"> ・セントラル冷暖房やプール循環設備のON/OFF制御等のみ可能であり、機器の細かな制御は今後検討 ・電力会社主導の制御

1. 5つの課題への対応状況と今後のスケジュール

①重点機器の下位層(伝送メディア)の特定・整備

・HEMSと各機器の間は公知な通信方式を用い、**メーカーが独自仕様を用いないことを合意**。

※例えば、Wi-Fi、Bluetooth、PLC等が考えられる。

・今年度中に、重点機器ごとの通信方式の詳細仕様(プロトコルスタック)を策定する。

②重点機器の運用マニュアルの整備

・**運用マニュアルにおいて整備すべき項目を決定**し、骨子として報告。

※具体的な項目としては、「事業者の責任分解点の整理」、「施工時の手順」、「カスタマーサポートの役割分担」等

・今年度中に、当該運用マニュアル第1版を策定・公表。

③他社機器との相互接続検証と機器認証

・相互接続検証や機器認証をサポートするため、神奈川工科大学に「**認証センター**」を**11月21日に開所**することを報告。

・今年度中に、中小企業を始めとする様々な事業者の参入を支援するための「**開発支援キット**」を整備する。

④国際標準規格との融合・連携

・海外規格との融合・連携を検証していくため、早稲田大学に「**実証センター**」を**11月1日に開所**することを報告

⑤DR技術・標準の調査研究

・全国共通に用いるデマンドレスポンスの手法として、既存方式である「**OpenADR**」を**ベースとした検討を進めることとする**。

・今後、我が国のニーズに合わせた詳細仕様を策定していく。

2. デマンドレスポンスタスクフォースの立ち上げ

○上記課題⑤で示されたデマンドレスポンス手法の詳細仕様の策定を加速化するため、本検討会に**デマンドレスポンスタスクフォース(DR-TF)を設置**し、作業を進める(今年度中に策定)。

○また、エネルギー管理システム(BEMS)導入促進事業などとも連携し、デマンドレスポンスの普及の加速化を目指す。

第3回スマートハウス・ビル標準・事業促進検討会のポイント

課題	成果	今後について
○重点機器の下位層(伝送メディア)の特定・整備	<ul style="list-style-type: none"> ○公知で標準的な通信方式として、920MHz無線、2.4GHz無線、5.0GHz無線、Ethernet、PLCを特定し、通信方式の詳細仕様(プロトコルスタック)として整理 <ul style="list-style-type: none"> ※スマートメーターはEthernet、5.0GHz無線を対象外 ○各機器について中小企業を含む参入が可能となる環境の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ○検討終了
○重点機器の運用マニュアルの整備	<ul style="list-style-type: none"> ○各重点機器に関して運用ガイドライン[第1.0版]を作成 	<ul style="list-style-type: none"> ○カスタマーサポートに関しては積み残しとなっているため、引き続き検討を実施する ○EV/PHVに関しては、HEMSと電気自動車充放電システム間の必須コマンド定義をエコーネットコンソーシアムと自動車関連業界間で速やかに協議を行い、HEMS-TFの審議を経て運用ガイドライン[第1.1版]として掲載 ○新たに検討すべき項目が現れた場合には、今回の検討・整理の手法を参照し随時検討実施
○他社機器との相互接続検証と機器認証	<ul style="list-style-type: none"> ○当初の予定通り昨年11月21日にHEMS認証支援センターを開所 <ul style="list-style-type: none"> ※昨年度実績で47社が利用 ○本年1月に開発支援キットを公開し、2月に詳細説明書を公開 <ul style="list-style-type: none"> ※支援キットのダウンロード実績:平成25年4月末までで220件 	<ul style="list-style-type: none"> ○HEMS認証支援センターによる支援を継続 ○今後の体制強化(支援内容の充実、他地域への支援センターの展開)等も見据え、次回検討会までに、中小企業のニーズ等を整理
○国際標準化に向けた動き	<ul style="list-style-type: none"> ○当初の予定通り2012年11月1日に新宿センターを開所 ○ECHONET LiteについてISO/IECへ提案し、国際標準化に向けた作業を進めている 	<ul style="list-style-type: none"> ○ECHONET Liteの国際標準化に向け、作業を継続 ○海外におけるECHONET Lite認証センターの年内設立
○DR技術・標準の調査・研究	<ul style="list-style-type: none"> ○DRタスクフォースを2012年11月に立ち上げ ○電力会社とアグリゲータ間の自動DR(ADR)の標準手法について、我が国のユースケースを整理し、米OpenADRをベースに策定 ○今夏、一部の電力会社において新宿実証センターを活用し、試行的に当該手法を導入する 	<ul style="list-style-type: none"> ○各電力会社において、ADRの導入に係る検討を加速化し、課題事項を整理する。 (必要に応じて手法を改定)
○事業促進に向けた検討	-	<ul style="list-style-type: none"> ○HEMSを通じて取得した電力利用データを利活用した新サービス及び新ビジネスの創出に向け体制を構築し検討を開始